

みんなで楽しく続ける 9月25日

東日本大震災の翌年、北島町にある県防災人材育成センターに出向し勤務しました。県内24市町村の幼稚園から高校まで、児童・生徒や先生方、そしてPTAや自主防災組織の方々に、講座や研修を通じて、繰り返し繰り返し「防災教育」の重要性を伝えました。

災害列島で暮らしている私たちだからこそ、いくつになっても、どこにいても、常に「防災」は意識しておかなければなりません。そして、その第一歩は「自助」「自分の命は自分で守る」さらに、そのうえでの「共助」つまり、大切なふるさと(地域)とのつながり。



津田中が、「ぼうさい甲子園」でグランプリを2年連続して受賞したのも、ちょうど同じころでした。県危機管理部の一職員として視察させていただき、一教員としても学びました。地域との結びつきの中で繰り広げられる活動内容は、先進的・多角的かつ実践的でした。総合的な学習の時間(当時は講座制)での様々な取組は、その後も引き継がれて、若い世代の地域防災リーダーを育てています。



えん縁あって津田中^{ふにん}に赴任した今年度初め、既に全学年の「総合的な学習の時間」には、地域へ出向き、地域の方々とのやりとりを重ねて、防災を通じて「生きる力」を育む機会とするためのそれぞれの学年に応じた計画が準備できていました。しかし…新型コロナの拡大。地域へ出向くことができなくなりました。

本日の「防災DAY」のプログラムも、計画見直しの中で生まれた新しい防災学習の舞台です。県内初の試みとして、災害報道を通じての知見も豊かなNHKの講座を取り入れました。震災の現場取材をされた社会部記者さんからの「命」に関わるお話。実際に機材を操作しながら中継車からの放送の仕組みを学ぶ体験。災害時に「情報」をどのように受け止め、「自助」のためにどう活用すればよいかについて、生徒の皆さんが我が身に置き換えて考える機会になればいいと思います。

Withコロナの今、これまでの先輩方の成果を生かしながらも、これまでになかった方法での防災をすすめる。手法は変わってもめざすべき場所は同じ。一人一人が、災害から自分自身の「命」を守ること。そして、大切なのは継続すること。そのためには…みんなで一緒に楽しく学んでほしいと思っています。



学校長